

# ピロロ

# 11

2012年 No.325  
平成24年11月



JAひろお感謝祭開催	2
交通安全大会開催	3
第29回北海道肉用牛共進会	
2012北海道ホルスタインナショナルショウ	4
役員研修実施	5
技能実習生現地面接行われる	6
組勘の精算は忘れず年内に	
(株)ピラオロTMR供給開始	7
電牧柵設置される	
種子馬鈴薯選別工場操業開始	
町営牧場一斉退牧行われる	
てん菜収穫始まる	8

ツリー点灯式で牛乳消費拡大キャンペーン	
搾乳牛放牧技術研修会開催	
デントコーン収穫作業終了	
年金友の会パークゴルフ大会開催	9
青年部初の食育活動	
広尾高校生インターンシップ受入	10
新規採用職員紹介	
理事会	11
表紙インタビュー・占い	12
ICキャッシュカードへの切り替えはお済みですか?	13
背表紙(金利上乘せキャンペーン)	14

# JAひろお 感謝祭開催

9月1日～2日、JAひろお感謝祭が町内特設会場にて開催されました。この感謝祭は今年で4年目になり、両日とも天候に恵まれ、午前10時の開会から、多くの町民の方々が来場されました。

今年は、自家製野菜の生育も良好で、日頃から丹誠込めて育てた「とうもろこし」や「じゃがいも」など、数々の野菜が販売され大好評でした。

また、金融・共済事業の相談窓口、車検予約や新車・中古車の展示即売会のほか、タイヤ・ガス器具等の販売も行われJA事業への理解も深まりました。

会場内では牛乳消費拡大の取り組みとして牛乳の無料配付や、今年からAコープサンタ村と本庄水産が参加し、カレーライス、ポテトフライ、焼きイカ、焼き鳥等の販売が行われました。緑日コーナーでは、ストラックアウト、金魚やヨーヨーすくいのほか、おもちゃがもらえる100円くじも行われ大人も子供も大喜びでした。また、100円で芋の詰め放題、芋を指定された重量だけ袋に詰めるゲーム、ビンゴゲームや餅まきなどが行われ感謝祭は大盛況でした。

ご協力いただいた生産者及び関係者の皆様には大変お世話になり誠にありがとうございました。



ビンゴ大会 特賞おめでとうございます!



元気くんとほくとくん。子供たちに大人気!



もちまき大会



農畜産物直売所は今年も大盛況!

平成21年度

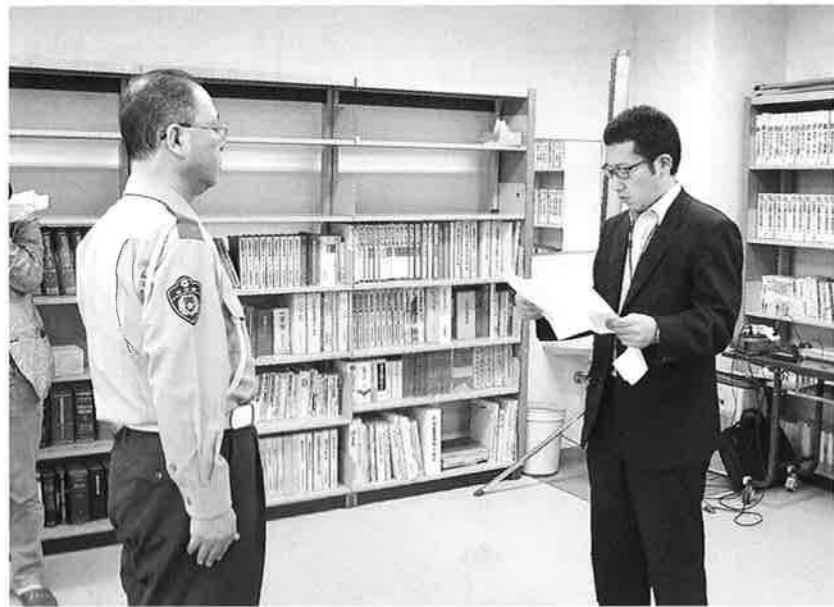
JAひろお

## 交通安全大会開催

8月28日、JAひろお交通安全大会が広尾町農村環境改善センターで開催されました。

この大会は、職場全体で交通安全に取り組み、地域から交通事故を無くすために、平成24年度交通安全推進目標

「(交通死亡事故抑止7大セーフティ・キャンペーン)の推進、交通安全教育と安全運転管理の徹底、常に環境に優しい運転の励行)を推進し、交通安全に対する意識の高揚を目的に行っています。



全員で交通安全推進目標を朗唱した後、萬亀山組合長から交通事故を起こさない、遭わないよう日頃から交通安全に気をつけましょうとの挨拶があり、職場を代表して金融・共済課の杉山職員が交通安全宣言文を読み上げ、伊藤広尾警察署長に手渡しました。

伊藤署長より、交通安全に対する訓辞を頂き、布施地域交通課長からは交通事故防止についての指導を受け、これからも交通事故の無い職場を職員全員で目指すことを確認する大会となりました。

第29回

## 北海道肉用牛共進会

9月8日～9日、第29回北海道肉用牛共進会が十勝農協連家畜共進会場(音更町)にて開催され、各地区から選ばれた165頭、父系群・母系群・改良組合及び農協繁殖群16組の出品があり、8日測尺審査・栄養度審査、9日審査の日程で行われました。

審査委員長には、

全国和牛登録協会 与 池田和徳氏、審査委員は全国和牛登録協会中央審査委員 栗生要氏、西部博寿氏、測尺審査委員は北海道立総合研究機構畜産試験場肉牛グループ主査 酒井稔史氏

がそれぞれ担当し厳正かつ迅速に進めていました。

当JAからは佐藤哲也牧場が第1部、(有)北藤ファームが第6部で出品しました。

なお、各部の成績は下記の通りです。

### 各部成績

第1部 (生後10ヶ月以上13ヶ月未満の未經産)	きよ号	3等賞	佐藤 哲也牧場
第6部 (生後48ヶ月未満の経産)	よしふじ号	1等賞2席	(有)北藤ファーム

# 2012 北海道ホルスタインナショナルショウ

ジャージー種 シニア・ジュニアチャンピオンにかがやく



9月22日～23日、2012北海道ホルスタインナショナルショウが北海道ホルスタイン共進会場（安平町）にて開催され、各地区から厳しい予選を勝ち抜いてきたホルスタイン種426頭、ジャージー種32頭の出品がありました。

オフィシャル・ジャッジ（主任審査員）は、大樹町の酪農家 木村博文氏、アソシエート・ジャッジ（アソシエート審査員）とジャージー部門オフィシャル・ジャッジは岩見沢市の酪農家 瀬能剛氏、リードマンコンテスト・ジャッジとジュニアカップ・ジャッジは釧路市の酪農家 成田純哉氏の3名が務めました。

当JAからはジャージー種3頭を含め佐藤孝一牧場、山本勝己牧場、川崎正幸牧場の3戸9頭が出品しジャージー種の未経産部門において佐藤孝一さん、経産部門において、川崎正幸さんがそれぞれチャンピオンを獲得されました。

なお、各部の成績は下記の通りです。

## 各部成績

ジュニアチャンピオン（ジャージー種）			
	アサナベ	IT フォング デザイア	佐藤 孝一牧場
シニアチャンピオン（ジャージー種）			
	ピードモント	マーサ ドリア ET	川崎 正幸牧場
第3部	YF ヒンペル SA マリー RED (未経産カーフクラス 生後10カ月以上12カ月未満)	3等賞4席	佐藤 孝一牧場
第4部	TMF セブテニー チーズ アトウッド フォーゼ ET (未経産ジュニアクラス 生後12カ月以上14カ月未満)	1等賞4席	佐藤 孝一牧場
第5部	ドラマチック アシユリン ET (未経産ジュニアミドルクラス 生後14カ月以上16カ月未満)	1等賞1席	佐藤 孝一牧場
第5部	レデイスマナー ロイ エキサイト (未経産ジュニアミドルクラス 生後14カ月以上16カ月未満)	2等賞5席	佐藤 孝一牧場
第8部	ノースドリーム CL ダミアン ハーモニー ET (未経産シニアクラス 生後20カ月以上22カ月未満)	2等賞2席	佐藤 孝一牧場
第15部	ウイナーマイン GW レイチエル (4歳クラス 4歳以上5歳未満)	1等賞4席	山本 勝己牧場
第18部	アサナベ IT リーガル ヨツシー (ジャージー種 未経産ジュニアクラス 生後12カ月以上17カ月未満)	3等賞2席	佐藤 孝一牧場
第19部	アサナベ IT フォング デザイア (ジャージー種 未経産シニアクラス 生後17カ月以上22カ月未満)	1等賞1席	佐藤 孝一牧場
第21部	ピードモント マーサ ドリア ET (ジャージー種 3歳以上クラス 生後36カ月以上)	1等賞1席	川崎 正幸牧場

## J Aひろお役員視察研修を実施

9月10日～13日、JAひろお役員等視察研修が東京・名古屋方面で行われました。この視察研修は本町農業の振興を目的として行われているもので、今回は当JAの役員その他に女性部から部長の山本和美さん、青年部から佐藤真樹さんにも参加していただき、全農、農林水産省での意見交換や三重県の酪農家「あかつ牧場」、6次産業化で注目されている「もくもくファーム」などを視察してきました。

全農では、府県における生乳の需給状況や飲用乳消費拡大に向けた取り組み内容や配合飼料原料穀物等の生産状況と世界的な需給バランス、安定的に原料を確保するための対策



などについて説明があり、参加者の中からは牛乳の消費拡大対策について「テレビなどの幅広いメディアを通じて牛乳の消費拡大に繋がるような効果的なPRを精力的に行っていく」との意見などが出されました。また、飼料情勢については、今年米国の大干ばつによるコーンの収量不足などを要因とした大幅な配合飼料価格の上昇が予想されることや、世界の飼料用原料在庫の約40%は中国が確保しており、将来的な世界の飼料需要量の増加を考えると大きな懸念材料であり、在庫量の確保に向けた対策が急務となっていることなど直接的に酪農経営に影響する事項とあつて参加者は真剣に聞き入っていました。

農林水産省では、食料自給率50%を目標とする「新たな食料・農業・農村基本計画」の内容と国内の酪農情勢や中長期的な農業振興計画について本町農業の現状を説明しながら意見交換を行いました。生乳生産現場においては、近年、3年を目処に増産と減産を繰り返して、将来に向けて安定的に酪農経営を持続させていくための展望がなかなか持てないことや、乳製品の不安定な在庫量によって、外国産乳製品などが国内産乳製品に代替えし、その後の国内産乳製品等の需要回復を図るためにかなりの期間を要するなどの課題を解決するために、国である程度の乳製品等在庫確保に向けた備蓄等の可能性について意見を求めました。

国としては、過去に供給が過大になった時に政府が買い取って備蓄したこともあるが、在庫量を減らすために相当の期間を要し、保管料など財政的な負担も非常に大きかったことから取りやめた経過にあることや、全国的に減産傾向にある生乳生産量の押し上げを図るための増産対策の実施、需要減少期における過剰在庫対策として乳業に対する製造費の助成などを実施して安定生産体制の構築を目標

指しているとのことでした。また、所得不足払い制度として実施している補給金の引き上げの要望については、安易な補給金の引き上げは乳価の引き下げに繋がりがかねなく、乳価に影響を与えないで実質的に生産者の手取金額が増えるような経営安定化対策について検討しているとのことでした。参加者からは、近年経営を中止する生産者が絶えず、将来に不安を抱えている生産者も多い状況を踏まえ、長期的な所得確保対策など将来に希望が持てるような農業の実現に向けて様々な対策を講じて欲しいと強く要望しました。

この後、一行は東京を離れ、次の視察先である三重県へと移動し、おからを発酵させて製造したTMRを利用して効率的に生乳生産を行っている「あかつ牧場（代表 太田誠二氏）」を視察しました。この牧場は、従業員およびパートなどを雇って常時約210頭の搾乳を行っており、年間約2,500トンの生乳を生産している県内でも比較的大規模な牧場です。特徴として別な組織にして、おからを主体として醬油かすやコーン圧パン、ピートバルブなどを利用して発酵TMRを製造して給餌しており、最近注目されているエコフイード（食料循環資源利用飼料）を利用する牧場としても知られているところだ。

代表の太田誠二氏からは、ここに至るまでの経過や発酵TMRの製造過程における苦労など多岐に亘ってお話を聞くことができ、非常に良い視察研修となりました。

次の視察先は、ここ数年、国の積極的に進めている農業の6次産業化の先進的な取り組みを行っている「JA松坂きつす黒部」（農産物直売）と「伊賀の里モクモク手作りファーム」で、店内の作りやシステム、顧客の利用状況などを視察しました。特に「伊賀の里モクモク手作りファーム」は、伊賀の養豚農家を中心にハム工房を1987年に設立したのが始まりで、その後、体



験型視察ファームとしてウインナー焼き工房、地ビールやパン工房などを設置し、様々な体験が可能なファームとして地元の方はもちろん、全国からも多くの観光客が訪れる場所として成功された観光牧場です。

また、都市部から同牧場への就職希望も多く、農業に希望を持った若い従業員による多彩なイベントを催すなど家族で楽しめる牧場であると同時に、農業の大切さや楽しさを幅広くPRできる場所となっています。視察当日は平日にもかかわらず多くの方が来場されており、充実した施設とあわせて農業を主体とした6次産業化への可能性を感じさせられる視察となりました。

最後に、今回初めてJAひろお役員視察研修に参加されたJA女性部 山本部長からは「JA全農や農林水産省など、女性部の研修では行くことの出来ない場所での研修をさせていただき、私たちが普段使っている濃厚飼料の流通の仕組みや、価格安定に向けた取り組み、所得確保に向けた政策などについての話しを聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。」また、JA青年部 佐藤真樹さんから「今回の研修で見聞を広げることができ、特に6次産業化の取り組みについて視察できたことは今後の農業のもつ可能性を見いだす上で、とても有効な視察であった。」とのコメントが寄せられました。

## 電牧柵設置される



本町におけるエゾ鹿、熊等による農作物被害は、この数年で急増し昨年は1億円を超える被害となりました。このことから、昨年、組合員の皆様で構成するJAひろお鳥獣被害防止対策検討委員会において補助事業を活用し、電牧柵を導入することで計画を進めて参りました。

このたび平成24年度鳥獣被害防止総合対策事業による電牧柵が配布され、事業参加戸数は40戸113台の電牧柵が設置されました。有害鳥獣による農作物被害が増えている中、今回の電牧柵により今後の農業被害が少なくなることを期待しています。

## ㈱ピラオロTMR供給開始



9月1日より兼ねてから準備を進めていた㈱ピラオロから念願のTMRの供給が開始され、構成員が見守る中、順調にTMRが製造されトラックに積み込まれました。

出発式にあたり、㈱ピラオロ 原淳代表取締役より「長期間にわたり関係者の皆様に多大なるご協力を賜り無事に本日を迎えることが出来ました。TMRの供給が開始されたことでようやくスタートに立つことができ、これを契機に地域に貢献出来るように頑張って参りたい」との挨拶があり来賓を代表して、角倉組合長代行より「計画段階から3年の歳月を経てこの日を迎えたことは大変喜ばしいことです。この施設をフル活用し、皆様方が更に作業効率を高め、町内6万tの生乳生産に向けて頑張ってください」との祝辞があり、各構成員のもとへ順次TMRの配送が開始されました。

# 技能実習生現地面接行われる



10月20日～24日にかけて、中国湖北省鐘祥市に於いて平成25年度に受け入れをする技能実習生の現地面接が

行われました。面接は、当JAと同じ送出機関から受け入れをしているJA忠類・JA鹿追町と合同で行われ、3JAの受入希望26名に対し、男女総勢47名の面接希望申し込みがあり、面接に先立ち来年早々に茨城において技能実習を行うことになっている研修生の出迎えがあり、研修内容の一部視察が行われました。

今回面接を行った技能実習生も同様ですが、面接に応募し第一次選考で選ばれた技能実習生は、更に身辺調査が行われ、その後送出機関の講習所にて3ヶ月間日本語を始め、基礎体力増強の厳しい研修が行われ、3年間の技能実習のために入国することとなります。

面接後、行われた鐘祥市主催の歓迎会では副市長より「日本には数多くの技能実習生の受け入れをしていただき、農業技術は当然のことながら、日本人の礼儀正しさも身について帰国して周り、周りにも良い影響を与えていることに感謝を致したい」との歓迎挨拶がありました。

団長の萬亀山組合長からは「優秀な技能実習生を数多く送って頂き、日本農業の下支えを行って貰っていることに感謝します。尖閣諸島の問題もありますがそれは国と国の問題で、基本的に鐘祥市や技能実習生とは人と人の繋がりを大事に友好関係を尊重し、これからも仲良くこの制度を末永く利用して行きたい」と挨拶をされました。

平成25年度からは11戸で24名の技能実習生が本町で活躍することになります。

今後も当JAにおいて、技能実習生の受け入れをサポートして参りますので、受入希望がある方は農業振興課までご相談下さい。

## 町営牧場一斉退牧行われる



町営牧場で預託牛477頭（オソウシ181頭、東豊似296頭）の一斉退牧が10月15日、22日、24日、26日の4日間にわたり行われました。

今年は春先からの大雨と低温の影響により、牧草の生育が心配されましたが、7月以降天候が回復し、牧草の生育も順調に進み、ほぼ例年通りの退牧時期となりました。

放牧により足腰が強くなった牛たちは入牧時と比べて一回りも、二回りも大きくなり、牧場従業員に誘導され、次々とトラックに乗せられ預託先の牧場に戻りました。

入牧された牛たちがこれから良質な生乳生産に貢献し活躍することを期待しています。

## 種子馬鈴薯選別工場操業開始



10月9日より種子馬鈴薯選別工場が操業を開始しました。

連日工場の中では、作業員がコンベアで次々と送られてくる原料を選別しています。

町内では27haの種子馬鈴薯が作付けされており、今年は春先の大雨により一部、植えたばかりの芋の流出や、蒔き付け作業が1週間ほど遅れるなど生育不良が心配されましたが、7月以降は好天に恵まれ、収量は平年並みで、良質の種子馬鈴薯が出荷出来る見込みになりました。

工場はおよそ1ヶ月間操業し、厳選された種子馬鈴薯は各方面へ出荷されて行きます。

## 組勘の精算は忘れず年内に!

本年初めに提出いただきました営農計画に基づき取り引きをして参りました組勘取引も残すところ1ヶ月余りとなりました。

組合員勘定は、年内に精算していただくことが原則となっておりますので、宜しくお願いします。

なお、資金借入による精算を予定されている方は、早めに地区担当者にご相談いただきますよう併せてお願い申し上げます。